

令和5年6月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

一部に悪天候の影響はあったものの、コロナ感染症の影響が薄らぎ、売上が増加した卸・小売業やサービス業等の景況感は改善する一方、原材料費高騰の影響が特に大きい食料品製造業や窯業・土石製品製造業等の景況感は悪化した。この結果、全体の景況DI値は横這いとなっている

多くの業種で価格転嫁は進んできたものの、原材料費等の高騰が収益を圧迫する状況は変わらず、また、人手不足感が一層厳しくなり、廃業をも検討せざるを得ない状況を危惧する声があるなど、先行きは依然不透明な状況が続いている。

山口県の主要指標 DI 値（令和5年6月末現在）






※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：11.3% 悪化：33.8% DI 値：▲22.5% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：21.3% 減少：28.8% DI 値：▲7.5% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：11.3% 悪化：36.3% DI 値：▲25.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（令和5年6月末現在）

 30 以上	 30 未満~ 10 以上	 10 未満~ ▲10 以上	 ▲10 未満~ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	---	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	▲50.0	▲100.0	▲50.0	▲66.7	▲25.0	▲33.3	▲46.9
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
0.0	▲25.0	▲60.0	18.2	▲27.3	42.9	0.0	▲6.2
							

全 体
▲22.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	売上高は、商品販売価格の値上げにより増加しているが、原材料他の値上げが止まらない。	調味料製造業
	人の動きが出てきて、前年比売上は増加したが、人手不足感が強い。豪雨の直接的な被害情報は入っていないが、売上に影響があった。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	最低賃金が見直され引き上げられる。売上は改善されてきたが収益が圧迫されているので、価格改定を検討しないといけない。	パン・菓子製造業 下関市
	水揚げの減少により、原魚の価格が高騰している。人手不足が一層厳しくなってきた。	水産食料品製造業 長門市
	業況は、少しずつコロナ前に戻っている。世界情勢等の影響で値上がりが続いており、売上が増加しても利益面では厳しい状況。6月は比較的動きの止まる落ち着いた月だが、地域の行事等が再開され始め、7月からは忙しくなると思われる。	水産食料品製造業 下関市
	地元地域の大きなイベントが復活し、地道な努力の成果が実って売上利益が伸びている。今後の電気料金等値上げに耐えられる力をここで蓄えておきたい。湿度の高い梅雨末期、酷暑が予想される今後、衛生面、健康面を考慮し、適切にエアコンを使用していきたい。	食料品製造業
	コロナ感染もほぼ収まり、飲食店等も通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。豪雨による農作物への影響が懸念されるなか、6月30日に、山口市、美祢市で豪雨災害が発生、被害状況を調査中。肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続くなか、取引先によっては、値上げをかたくなに拒否するところもあり、農業者には、原価割れの状況が続いている。ロシアがウクライナに侵攻し、1年以上が経過したが、全く終息する気配も無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。中国からの輸入に頼っているリン酸の価格も上昇し、肥料価格が前年比150%アップという驚異的な結果となった。政府の、原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。今年度からインボイスと電子帳簿保存法への対応が求められるが、そのようなことへの対策も必要となる。	精穀・製粉業
繊維工業	経費上昇分の価格転嫁はできている。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合としての活動は皆無である。	製材業・木製品製造業 岩国市

	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和4年6月と比べ20%の減少。スギ・ヒノキの原木価格の下落に伴い販売価格の値下げに波及しており、高額仕入れの在庫にも影響している。新築住宅関連の注文減少や取引先の減少により、一部の組合員にとってはこれまでで最も厳しい業況である。雇用人員も減少している。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	スポット受注があり売上は伸びたが、主材料等が値上がりしているため収益は変わらない。	印刷業 山口市
	紙、インキ、印刷版等の原材料の高騰が続いており、収益の圧迫要因となっているが、以前に比べれば価格への転嫁も理解され、交渉もスムーズに行うことができつつある。今後はデジタル化により市場規模の縮小は避けられないものの、パッケージ、包装については高需要を維持していくと思われる。フレックスタイム制の導入や夫婦共働き世帯の増加等、ライフスタイルの多様化により個食化が増加することにより、個食用の包装需要の増加が見込まれる。DX導入による生産性の効率化、異業種や新事業への積極的参入と共に、今後の印刷業界の大きな可能性を示すもののひとつといえる。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	山口県土木建設部の公表価格見直しの陳情活動が続いている。セメントの値上げが実施され、電気代の値上げも相当の影響が出ており苦しい状況が続いている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷状況は前年比25%減少。電気代、原材料費の値上げが収益を圧迫しており、再度値上げの検討が必要な時期となった。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比89%、前年同月比93%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定しているが、やや上昇している。	生コンクリート製造業
	唯一残っていた石材加工用機械製作会社が、新規機械製作を止めメンテナンスのみを実施するとの事。組合内での廃業も増えており、機械が動かない現状ではやむを得ない。	石工品製造業
	萩市内の6月売上は、小売・卸売ともに前年と変わらず。外国人観光客が多く見られ、日本人観光客は減少した印象。組合参加の共同販売では、下関のデパート内での販売が不調で、売上が半減している。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	5月に続いて6月も周南コンビナート大型修繕工事、出張工事等により繁忙であった。例年夏場は閑散期となるが、熊本県での半導体製造工場の建設工事関係に携わっている企業にとっては繁忙となる模様。	一般機械器具製造業 下松市
	全体の業況は特に変わらない。円安が続き、輸出が増加するかと思ったが、結果は出ていない。受注量が大幅に増えたが、人手不足により納期を調整する状況である。早期に採用を強化し人員を確保することが望まれ、採用機関等への積極投資が必要な状況が続いている。60時間超の残業割増賃金の資金をどこから捻出するか悩んでいる。働き方改革2024年問題を見据えて鋼材仕入価格や運搬に関する新たな要望が出てきている。コロナも徐々に収束し受注量も上昇気運であるが、視野を広く持ち、しっかりと対応できるように気を抜かないよう心がけて業務を行いたい。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>株価の上昇に見られるように、大半の企業の業績は好調であるが、円安、ロシアのウクライナ侵攻に伴い世界情勢が不安定化し、中国、アメリカ、EU、日本等の経済摩擦を引き起こし、資源高・資源不足により企業収益に大きな影響が出ていて中小企業にとっては先が見えない状況である。貿易収支も大幅な赤字が続いており、これに関連して電気、ガス料金にとどまらず、物価のアップも大きな負担となっている。企業の国内回帰、インバウンドの回復等明るい材料もあるが、一部製造業の減産もあり下請けに影響が出ている。大手企業の賃上げが進む一方、中小企業の賃上げはままならず、サービス業において特に人材の確保が困難な状況である。外国人人材確保の面でも、日本の低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾との人材確保競争は厳しいものがあり、国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。</p> <p>長期化する物価高騰により、先行きが見通せない感覚がある。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
輸送機器	<p>鉄道車両関係の現状は海外（台湾）からの受注があり順調に推移しているが、受注量は減少となる見通し。原材料費や電気料等の水道光熱費の高騰により、収益悪化が続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予定よりも大幅に受注量が減少しており、引き続き今後の受注動向を注視したい。</p>	鉄道車両・ 同部品製造業
卸売業	<p>倉庫の売上は値上げの効果もあり前年より増加した。海産物入庫の増加により、月末在庫数は前年より増加している。電気料金が落ち着くと倉庫運営が順調となる。</p>	乾物卸売業
	<p>休漁期にあたり原魚の入荷量自体が減少している。以前に比べ天候が大きく影響し入荷量の減少が続いている。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>仕入価格の上昇により、資金繰りに影響がある。</p>	各種商品卸売業 山口市
	<p>コロナや半導体不足が収まり、各仕入先商品の価格アップもあり、業界の売上は上がっている。</p>	各種商品卸売業 下関市
小売業	<p>売上は増加している。アフターコロナや季節柄、ファンデーションや口紅等が少しずつ回復しているが、マスク着用の習慣が続いていることや、物価や光熱費等の高騰により化粧品にかける消費者の財布の紐はまだほどけていないように感じる。メーカーではコスメデコルテが人気野球選手のモデル起用やヒット商品のお陰で好調だが、専門店はその恩恵を受けていないのが現状。化粧品メーカーの女性に向けたアンケートによると「一生使い続けたいアイテムの1位はスキンケアだが、6割は使い続けたいスキンケアに出会えていない」と解答。お客様に寄り添いカウンセリングをしてナビゲートできるのが専門店の強みとして活かしていきたい。</p>	化粧品小売業
	<p>コロナが5類に移行となり、人通りも少しずつ回復に向かっている。6月は、おさんぽマーケットが隔週で開催され、集客に繋がっている。</p>	各種商品小売業 周南市

	<p>売上は前年同月比 2%減少。全国旅行支援の反動により観光需要が減少。大雨等の天候不順も客足を鈍らせた。資材・電気代のコスト増加。加えて、連日雨が続き、天候不順による生鮮食品の仕入値高騰も収益悪化につながっている。</p>	各種商品小売業 萩市
	<p>6月の供給高は日曜日を店休日としたため前年比 94.1%、来店者数 88.9%。商品の値上げが続いている。来店者は値段をあまり気にせず今まで通り購入している模様で売上は増加傾向。暑くなり、アイスクリームやスイカがよく売れている。</p>	各種商品小売業 下関市
商店街	<p>週末を中心に飲食店等サービス業の客足が戻ってきた。コロナの影響も薄らいできてマスク論争も沈静化。各所で夏イベント（夏祭り、夜市、花火など）の実施計画が公表されるなど、市況は上向きである。一方で物価高騰や品不足による悪影響は衰えず、供給を受ける手段や、光熱費の効率化など様々な対応が始まっている。値上がり傾向は止まらないので、企業努力でどこまで凌げるかが課題である。業種業態によっては不況のままのケースも散見される。暮らし方、消費構造、消費価値観、優先順位など、消費行動にかかる環境や背景がコロナによって一変。苦戦を強いられるケースもあり、業種業態、店ごとのきめ細かい支援が必要となっている。</p>	岩国市
	<p>異常気象により青果の入荷状況が悪化し、値段も上昇している。物価がどんどん上がっても、賃金が上がらないので、商店街の来街者数が減少している。</p>	山口市
	<p>暑くなってきた、人通りも少なくなり、消費も低迷している。</p>	宇部市
	<p>雨天の影響で人出もまばらである。商店街全体的に「来客は午前中が多く午後からのお客はない。」とのことで、昼からは店長一人が勤務し、人件費の削減を考えながら営業している。商店街活性化の為に補助金を利用したイベントの準備に忙しいが、効果に期待している。</p>	萩市
	<p>悪天候の影響もあり、商店街の人通りが少ない。仕入れ価格の上昇により、販売価格の値上げを余儀なくされ、買い控えが起きているという悪循環に陥っている。</p>	下関市
サービス業	<p>梅雨の鬱陶しい日が続くと、髪をさっぱりする人が増え、例年通り売上が増加。コロナも落ち着き、前年より数パーセント売上が伸びている。</p>	美容業
	<p>売上は少し増加傾向だが、光熱費や原材料費の高騰により、厳しい状況である。</p>	理容業
	<p>自動車整備業における人材不足・人材育成が喫緊の課題であるが、外国人人材の活用も変化を迎えている状況にあり、自動車整備業に在留年数に上限がない「特定技能 2号」の対象への追加が閣議決定された。整備業の現状は少子高齢化により人手不足で、整備士以外も含めた整備要員の平均年齢は上昇しており、今後廃業を選択する事業者も少なくない状況になることも予想される。事業継続には若い力が必要不可欠であり、外国人人材の活用は課題解決に対する 1つの要素になることも想定され、いかに組合として支援していけるかが今後の大きな課題となる。</p>	自動車整備業

	<p>値上げにより売上高は増加したが、電力の値上げ率が異常で会費の値上げをしても追いつかない。電力価格の地域差をなくす検討を願っている。電力価格の上昇等で家計が圧迫されているのか入会動向が鈍い。入会動向にも県内で地域差がある。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>前年同月に比べ売上が増加した事業所が多い。電気代や物価高騰による影響が大きく手元に利益が残りにくい状況が続いている。</p>	普通洗濯業
	<p>前年度に比べると、湯田温泉全体で景気が良くなっている。長雨が気になるが、引き続きお客様に喜んでいただけるサービスの提供に努め営業する。</p>	飲食業
	<p>全国旅行支援が 4/17 で終了し、売上が大きく減少するのではと危惧していたが、前年同月比で売上 130.4%、宿泊人員 128.6%と大幅に増加した。しかしながら、コロナ前の平成元年（2019 年）6 月との比較では、売上 93.1%、宿泊人員 114.8%であり、宴会需要が未だ回復しておらず、売上高に大きく影響している。</p>	旅館業 山口市
	<p>売上高は伸び悩んでいる。天候の不順や機械設備の故障等で営業日数が低下した。原油高騰や物価高に係る経費の増加、未払金の入金等で資金繰りが厳しい状況となった。</p>	旅館業 長門市
建設業	<p>中電への工事申請 102 件(当支部 89 件)、前年同月 125 件(同 109 件)。太陽光発電への申請 17 件(前年 37 件)、オール電化申請 47 件（前年 57 件）。LED 街路灯への切り替え・新設申請 23 件(前年 9 件)であった。</p>	電気工事業
	<p>工事量の回復が半年前の予想より遅れている。同業者へ作業応援に出向いたり、同業者から応援を受けた場合は、給与を支払ったり等で助け合っているが、以前仕事を頼んだ職人の退職等で、仕事があるにもかかわらず、頼めなくなってきた。複数地区より廃業の声が聞こえてくる。左官工事従業者は、30 年前より約 7 割減少しているが、更に進むものと予想される。</p>	左官工事業
	<p>官公需入札は順調に公表されており、令和 5 年度の仕事量は確保できるものと一安心している。人手不足は依然として解消せず、70 歳代の作業者が活躍している状況で、夏場の暑さや災害時の作業において不安がある。</p>	管工事業
	<p>県土木建築部の予算は、令和 4 年度とほぼ同額であるが、地区の土木建築事務所への配分額は不明である。令和 4 年度の組合員(22 社)受注状況は、令和 3 年度に比べ、件数で 34%、金額で 39%の減少となっている。土木建設業においては、受注減が著しく、極めて厳しい状況にある。加えて、若年労働者の確保、ICT 施工への対応、2024 年度からの働き方改革への対応が、待ったなしである。円安の長期継続が予想される中、諸物価の高騰が経営を悪化させている。</p>	一般土木工事業 柳井市
	<p>6 月の受注高は、対前年同月比 41.9%。今年度の累計では、対前年比 72.4%。</p>	一般土木工事業 萩市
	<p>長門地区の公共工事の発注高については、現在のところ例年並みである。</p>	一般土木工事業 長門市

	工場稼働率は確保しているが小規模工事が多い。地域によって工事量、見積件数に差が生じている。7月から消耗品、光熱費、ガス価格等の更なる価格高騰のため加工単価が厳しい状態である。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送関係は車両物資の輸送が約1割強の増加。平均的に物流稼働はみられるものの輸出向けが鈍く国内向け輸送が活発で、中小運送業者は全体的な増加を望んでいる。燃料関係は変化なし。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年比若干の増加となった。部品調達については幾分改善されたが、依然として遅れ遅れの状態が続いている。燃料価格は前年比2%の増加。	一般貨物自動車運送業 防府市
	運送に関しては、ダンプ輸送の案件が少し増えている。化学製品関係は横ばい。倉庫保管案件は微増。人員は若干不足している状態である。2024年問題に向け人員補充の必要がある。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+22.5%（令和5年5月1日～令和5年6月20日分）だった。5月1日～31日分は+23.7%、6月1日～20日分は+20.8%。前々年度比では、それぞれ+45.8%、+59.3%、+37.5%になった。回復しているように見えるが、前年、前々年が大幅に減少したためであり、平成31年度5月分比（コロナ禍以前）では▲31.7%。まだまだ回復しているとは言えない。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。5月分については、周南+26.2%、下松+44.3%、光+39.8%、防府市地区が+19.8%で、組合員の全域では+30.1%、地区外（員外）▲18.5%、合計+23.7%(+2,843千円)だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが下がり（前月550.0/トンが今月497.5\$/トン）、フレート（輸送）コストは上がり（前月9,000円/トンが今月9,400円/トン）。為替は円安（前月134.40円/\$が今月138.43円/\$）となり、燃料単価は前月より▲3.7%下がり、前年6月比も▲22.0%とさらに下がった。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。高齢乗務員が退職し、その補充ができない状況。時間帯によっては、配車待ちでお客様を待たせる場合が多い模様。Withコロナで、行動規制が緩くなり、需要が回復傾向にあるが、コロナ前（平成30年度）の需要の▲32%付近であり、まだまだ厳しい経営状況の模様。運賃改定が8月実施で認可になりそうだが、運賃体系が数種類あり、同一運賃にならないかもしれない。	一般乗用旅客 自動車運送業
	6月は対前年比若干減少となった。荷主の定期検査等の関連で作業の一部が停止するため、取扱高に影響した。	港湾運送業
その他	介護業界の人員不足は変わらず、人材確保が難しい。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたため、経済回復により他業種での人材確保が急速に進んでおり、介護業界の更なる人材不足が懸念される。技能実習生の雇用を考える施設が出てくることを期待し営業活動の再開を目指す。	介護事業